
トイレにいきたい男～行列編～

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トイレにいきたい男～行列編～

【Zコード】

Z5044D

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

どうしても我慢出来ないそんな時。トイレっていうのは混んでたり使用中だったりするものです。

俺はトイレに行きたかった。トイレに急ぐつてことは、もつ要件は一つだけだ。

これ以上は下品だから皆まで言わないが、とにかく今俺は、かなり大変な状況なんだ。

詳しいことは後で話すが、とにかく今の俺は、一秒でも早くトイレに行きたかった。

ハツキリ言おう。も、漏れる！－！

ああ、ようやくあつたぞトイレが。公園の奥つて以外と六場だけど、ちょっと汚いなあ、見た目が。

だけれどここは我慢しよう。世間体を失うのと、潔癖を我慢するのどっちが大事かは、まあ即答だ。

……つて、どうしてこんなに並んでるんだよ？！

「すいませーん。まだですかー？」

「あの……並んでるんですか？」

「そうだよ、全くさつきから出てこなくてさ」

「本当ですか？ あーもう、急がなくちゃいけないのに」

「ひつちだつて急がなくちゃいけないんだよ。自分都合ばかり言つな」

そんなことを言つてくるから、カチンときた俺は言ひてやつた。
「なんですって？！ 見てくださいよこの姿を。わしき私妻に浮気がバレて頭に包丁が刺さつてるんですよ」

「ああ、見ればわかるよ。そんなことは」

「もう本当だつたら死んでるんですけど、最後の心残りとして、どうしてもこの腹痛をどうにかしたいんです。だから早く！－！」

「それを言つたらお前。これを見る！－！」

男の人は、着ていたコートを少し剥がして、自分の胸部を僕に見せた。

「通り魔に拳銃で撃たれて、心臓貫通で即死さー。」

「そ、それは災難でしたね」

「でも、俺どうしても、どうしても！——トイレで、身体に残った不

絶たものを全部出してから行きたいんだ！！」「

— ! —

「全くですねーー！」

「僕なんて、腹切り婆でお化けに偶然あつたやつで、上半身と下半身切斷されちゃつたんつすよ。もうこれは運が悪かつたとあの世界で頑張つてくるしかないんですけど……その前にな、この便秘を解消してからいきたいんですけど……」

「さあ。ところで、あなた下半身は？」

「それがお恥ずかしい」と、くくっ……どこかで落としてしまつたんですよ……どなたか下半身貸してくれません?」

「さつあと探しにこみー。」

バキ——！　と俺達二人でソイツをぶん殴つて、遠くの方へ

「つるせえなあ、漏れちゃうだろ！」

「す、すいません。あなたも待つてるんですか？」

「ああ。バイクで事故つて首がすっ飛んじゃつてさ。おまけに子供も轢き殺したから地獄行きだつて。散々な話だろ？」

「えりですね……」

で、潔く地獄にいってやろうかと思つたら、このガキが『お腹イ

つて話になつて……なあまだかー？！」

世の中は広いなあ。他人のためこうやって必死こいてる奴もいる

のかあ。

なんて関心しているつむじ、お腹がグルルルと鳴り始めた。この野郎……機能が停止している癖にいつちよ前に俺を苦しめるつもりか。

他の方々も同じなようだ。つていうかさつきの首なしライダーさんまでお腹を抑えはじめてる。おいおい、簡便してくれよ。

俺達のイライラと焦燥が募る中、ふいにまた一人、後ろに並んでくる奴がやってきた。これはまた運が悪いのがきたな。

相当急いでいたのか、俺以上にゼエハアゼエハアと、呼吸に落ち着きがない。

「あなたも？」

「ええ、もう時間がないつていうのに…」

「俺達だってさつきからずつと我慢してるんですよ…」

「そうだそうだ。お前一人じゃないんだぞ」

「ガキだつて我慢してるんだ！！ お前少しは耐えろよ…」

「いやあ、そう言われましても……」

後ろにやつてきた人は、ふいに自分の腹巻を俺等に見せ付けた。

「俺、爆弾マニアの彼女に时限爆弾仕掛けられちゃって、いつそ死ぬなら誰か巻き添えにしてやろうと思つたんですけど、昨日食つたパンに当たっちゃつて。だから死ぬ前に一つスッキリさせたいつかなーと」

「そうだったんですね。ひどい女ですね、どいつもこいつも

「しかし爆弾とはまたすごいですね。あと爆発までどれくらいですか？」

「ああヤベエ。もう時間じゃん」

「全く、外が随分騒がしかつたなあ」

トイレに入つていた男は、よつやく一通りの「こと」を済まして、トイレから出てきました。

外には、たくさんの死体が転がっていました。それを見た男の人は、あまりのショックを受けて心臓麻痺を起こし、その場で死亡しました。

また一つ、死体がゴロンと増えました。

「うつ。」じゅうじゅう「

「新手の自爆テロか自殺サークルですかね？」

「あるいは連續殺人かもしね。念入りに調べるよ」

「はい！ にしても、爆死かと思つたら、全員違う原因で死んでるみたいですね」

「それだけじゃないぞ。ここから1kmくらい離れたところになんて、上半身と下半身の分かれた死体が吹き飛んでたからな」

「これは……自殺というよりやはり連續殺人でしうかね……ところで警部？」

「なんだね」

「トイレに行つていいでですか？」

「ダメ、俺が先」

「職権乱用はやめてください。警部、我慢できないんです俺」

「つるせー。俺は痔もちなんだ。我慢してると身体に毒なんだよー」

刑事と警部が睨み合つ中、鑑識のひとがまたやつてきました。

「鑑識はいりまーす」

「ああ、うう苦労」

そうして鑑識の人は、トイレの中に入つてきました。耳を塞ぎた

くなる様な嫌な音が聞こえてきました。

「あ、テメエ————！！」

(後書き)

明らかにスピリットサッカーノリを引き継いでしまった作品。これは駄目。次はもっと落ち着いた奴にします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5044d/>

トイレにいきたい男～行列編～

2010年10月8日15時22分発行